

ここに、がんばる人と、それをあたたかく支える人がいる

Live-rally 4

ライブラリー

*タイトルのlive-rallyは造語です。live=今 rally=やりとりするという意味と、ライブラリー(図書館)で本を閲覧するように、働く障害者の今を知っていただきたい、という願いを込めたものです。



◀ 仕事仲間と共に

「積極的なコミュニケーションづくり」 これが成長の第一歩

介護老人保健施設「ひまわり」。入所者と通所者で120名近くのこの施設で、大勢の介護スタッフとともに働く柴山周二さん(昭和53年生まれ)。複数の職業を経験し、高槻市萩の杜を通じて大阪障害者職業センターを紹介され、職業準備訓練(現在の職業準備支援事業ワークトレーニングコース*7参照)を受講。ジョブコーチ支援を受けながら職場実習、トライアル雇用を経て就職。就職して約10ヶ月が経過したいま、柴山さんは「ひまわり」のかけがえのないスタッフになりつつある。

ひまわりは、さまざまな職場で働く知的障害者

医療法人<蒼龍会>
介護老人保健施設

ひまわり

[概要]

業種:入所
ショートスティ(短期入所療養介護)
デイ・ケア(通所リハビリテーション)

[障害者の雇用状況]

正社員:1名 週休2日制

[障害者の雇用人数]

知的障害者:1人(蒼龍会全体では4名)

[知的障害者の作業内容]

館内(2・3階:)の定期的清掃及び、介護補助。

明るくなったのはフットサルが一番のきっかけだと思います。それが仕事にもつながって、スタッフとのやりとりもよくなって。試合とか練習とかしているうちに男性職員とも仲良くなって、笑顔がたくさん出るようになったと思います。(介護職の柴山さん談) ▶

フットサルの仲間 ▼



コミュニケーションというものと真摯に向き合う

柴山さんの職務内容は別表のとおりで、毎日異なっている。「ひまわり」では、障害者を受け入れるのが初めてで、一日の職務内容をどのように組み立てるかが課題だった。清掃等はすでに業者に委託しており、柴山さんが働くためには新たな職務を作る必要があったので、ジョブコーチは入浴介助や食堂の片づけ等、複数の仕事を組み合わせ新たな職務の可能性を探り、それぞれの仕事が一人でできるよう一緒に働きながら支援を行った。

柴山さんはいまではリハビリの歩行訓練など簡易な介助を行う等、「ひまわり」にとって欠かせない一員となっている。しかし、ここへ至るまでには柴山さん自身の努力があったのももちろんのこと、柴山さんを支えてきた現場のスタッフの協力や、縁の下の力持ちとしてのジョブコーチ3人の支援を忘れてはならない。

柴山さんの職務内容のひとつにリハビリやお風呂への誘導がある。心がけているのは、「これからリハビリルームやお風呂へ行きますよ」と声をかけて誘導することだという。ジョブコーチの内海さんによれば、この声かけは介護におけるコミュニケーションの基本だそう。たとえば、

車椅子をいきなり押すのは危険なので、「車椅子を押しますよ」と一言かけるのが大切だという。

しかし、これは一朝一夕にできるものではない。喫茶、レクリエーション、入浴介助の場面で必要な「声かけリスト」をジョブコーチが作成し、職場実習中、ドライヤーのあて方や「熱いですか?」と声をかけること、「体を起こしてください」「お茶をください」と利用者から要望されたときの対処方法もジョブコ

ーチを相手に繰り返し練習した。

初めのうち柴山さんは緊張で大きな声が出せなかったらしい。スタッフをまとめる三木看護師長によれば、「10ヶ月前とは全然違います。声は大きくなっていますし自信がついたせいか笑顔も見られます。利用者さんや職員の顔もほぼ覚えていきます。円滑な誘導もできるようになりました。本質的に心の優しい子なんだと思います」。

柴山さんを、短期間でここまで成長させたのは、積極的に話しかけてくれるスタッフや暖かな職場環境によるところが大きい。コミュニケーションと真摯に向き合う柴山さんは、深い愛情を持ったスタッフに囲まれながら、ゆっくりと確実に成長しているようだ。

(別表) 柴山さんの一週間の職務内容

	午前	午後
月曜日	入浴介助、リハビリ誘導	食堂片づけ、エプロン干し、入浴介助
水曜日	シーツ交換	食堂片づけ、エプロン干し、入浴介助
金曜日	入浴介助、リハビリ誘導	喫茶誘導
土曜日	リハビリ誘導	食堂片づけ、エプロン干し、入浴介助
日曜日	入浴介助	レクリエーションの補助等

人との絆を求める気持ちと、それに応える場所

柴山さんは「ひまわり」へ来る前、家具などの製作工場や作業所にいたことがあるが、当時を振り返り「前の職場では話ができなかった」と語る。「(いまも)話をするのは苦手だけど、ここではみんなが話しかけてくれる。フットサルのチームもあるし、気軽に話ができる」と嬉しそうである。自分の居場所があり、そして何より仕事が好きやりがいがある。暖かい職場環境の中で、生きるために必要なことをのびのび吸収している。年齢に近いスタッフとのコミュニケーションが柴山さんの自立を後押ししているようだ。



◀柴山周二さん

未来へ向かう意志と、それを支える暖かいチカラ

柴山さんは、正式採用後も仕事に意欲的だ。「もっと仕事を増やしたい」と相談を受けたジョブコーチは、早速大阪知的障害者育成会主催の「知的障害者ホームヘルパー3級養成講座」の情報提供を行った。講座に通う日と「ひまわり」の休日を調整し、仕事を休むことなく大阪市の谷町9丁目にある大阪府障害者社会参加促進センターまで



通うことになった。これからの夢は、ホームヘルパーの資格を取り仕事の幅を広げることだという。「困った時いつもスタッフに頼んでは大変だし、何でも自分でできるようになりたい」。講習の終了に向けて勉強の日々は続く。3級の次は2級に挑戦したいと意欲満々だ。

ご両親は「自分のことは自分でできるように」とグループホームに入所させ、仕事の後には料理学校や趣味の空手を習わせている。忙しくも充実した日々を送っており、費用は全て自分の給料からやりくりしている。ご両親の方針もあり、それが彼自身の将来の夢である「自立」へつながっている。柴山さんの未来は、自分の意志と周りの暖かい励ましで大きく拓かれていくことだろう。

◀ お年寄りのリハビリテーション「おしぼり巻き」

▼ 大阪障害者職業センター 障害者職業カウンセラー：竹下 純さん

保護者とのご相談のなかで、「人とコミュニケーションできる場所がいい」という希望があり、併せてジョブコーチをつけて本人の状況に合わせた支援をしてくださいとの依頼がありました。「ひまわり」では障害者雇用が初めてということから仕事の組立てについて、できそうなスケジュールを組立て、無理なく仕事に馴染むよう配慮し



ました。これまで大きな問題が起きなかったのは本人の努力はもちろん、看護師長を初め職場の皆様が行き届いた雇用管理があったことが大きな要因だと思います。これからも、障害を持つ人の立場に立ち、状況に応じた支援体制を考えていきたいと思っています。

▶ 三木和加子看護師長 ▶

最初は緊張のせいか声がとても小さかったのですが、仕事を理解してからは声もしっかりしてきて今ではかなり積極的になっています。いままでこれと言ったトラブルもなく、すっかりうち解けています。コミュニケーションが大事だと痛感しています。



▶ 財団法人箕面市障害者事業団 総務課企画係 兼大阪障害者職業センター協力機関型 ジョブコーチ：内海敦史さん



柴山さんは、入所当時から「ジョブコーチはいずれいなくなるから、何とか自分でできるようになりたい」という気持ちがありました。いまでは1人で積極的に仕事をしていて、とても頼もしく思いました。

さまざまな職場で働く知的障害者

Live-rally POINT

雇用に当たっての アドバイスを聞きました

理事・事務長：井上麗子さん

柴山さんは実習期間を経て入ってこられたんですが、ジョブコーチの方からの助言をきっちり守っているという感じでした。私たちスタッフには言えない部分でも、ジョブコーチだと言いやすいんじゃないのかな。ですから、ジョブコーチと常にコミュニケーション取りながらやっていくのがポイントですね。最初の頃から比べたら、それはもう本当に大きくなられたと思いますよ。ときおり笑顔もみられますし、余裕が出てきたんじゃないですか。ある意味で自信を持たせることは非常に重要なことだと思います。そのためには、仕事を任せたら、自分の力で達成できるまで焦らずにゆっくりと見守ることが必要だと考えます。彼がヘルパーの3級2級1級と進んでいく課程で、これからさらに仕事の幅を広げてくれると期待しています。

